

文部科学省推進事業 2019年度

「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」

『支援を要する子どもたちに対しての就労支援の取り組み研究』報告書

2020.03.13

八洲学園高等学校

本報告書は、2017年度「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」の『支援を要する子どもたちに対しての就労支援の取り組み研究』の3年目の取り組みとして、2019年度の研究をおこなったものの報告です。

①第1回検討会議

2019年9月12日（木）14時00分から16時00分

八洲学園高等学校 横浜分校にて実施。

実施内容

(1)校長挨拶

(2)2018年度の取り組み内容の確認・今年度の取り組み予定の説明

(3)外部アドバイザー・八洲学園高校担当者、その他教員紹介

(4)検討会議

○八洲学園高等学校より研究案実施報告（堺）

○外部アドバイザーからの助言

○その他

(5)出席者名簿

氏名	現職
伊藤 京子	公立学校共済組合関東中央病院 精神科精神保健福祉士 作業療法士
東鬼 裕子	スクールソーシャルワーカー、就労支援コーディネーター
林尻 悟	一般社団法人 障がい者・高齢者じりつ支援機構 代表理事
松隈 信一郎	一般財団法人ストレングス協会代表
林 周剛	八洲学園高等学校 校長
吉田 士文	八洲学園高等学校 教頭
多田 浩之	八洲学園高等学校 教頭兼みのり高等部校長
南條 将範	八洲学園高等学校 教頭
五味 美和	八洲学園高等学校 進路指導部長・町田分室兼みのり高等部主任
花田 久仁彦	八洲学園高等学校 教諭
吉田 洵	八洲学園高等学校 教諭
寺西 美加子	八洲学園高等学校 教諭
大本 真梨子	八洲学園高等学校 教務部長
熊谷 憲子	八洲学園高等学校 教諭
島田 悠	八洲学園高等学校 教諭
岩谷 彰太	八洲学園高等学校 教諭

石塚 理恵	八洲学園高等学校 総務部長 横浜分校主任
土屋 しのぶ	八洲学園高等学校 新宿キャンパス主任
植木 真也	八洲学園高等学校 教諭
本郷 元志	八洲学園高等学校 教諭
豊田 のぞみ	八洲学園高等学校 教諭
井上 達也	八洲学園高等学校 教諭
平井 美穂	八洲学園高等学校 池袋キャンパス主任



検討会議の様子

【八洲学園高等学校 実施報告】 報告者 寺西美加子教諭

毎週火曜・木曜日 平均週 3 時間 40 時間（前期） / 40 時間（後期）

はじめに 2017 年度、2018 年度に取り組んだ研究内容を再度確認し、2019 年度に取り組む内容と年間のスケジュールの確認をおこなった。次に 2017 年度、2018 年度の実績をもとに作成した 2018 年度前期実施案の取り組み内容の実施報告をおこなった。

以下、2019 年度の予定案となり、1 年目の生徒と 2 年目の生徒にわけ、この取り組みの役割分担を記載したものになる。2017 年度と 2018 年度の実施結果である、様々な特性を持っている生徒は、安定して登校することが困難であつたり、一つの声掛けでその様子が変わったり、安定した状態での学習の継続が非常に難しく、予定案が皮算用になることが多々あった。かといって、生徒の様子を無視して、教員や学校側の予定を優先する取り組みは、この推進事業の主旨である「支援の必要な生徒へのサポート」というものから逸脱してしまう為、予定案を変更することを恐れず、現場の判断で臨機応変に対応していくという認識を持って取り組むことを全員一致の見解として取り組んだ。その為、予定案は、大きな枠としての内容を決め、生徒の様子に合わせることを前提に作成した。

【2019 年度前期実施予定案】

前期実施予定初案		
	実施内容	
回数	1 年目	2 年目
1	学習スケジュールの確認	
2	準備 ・自分を理解する ・職業を知る	疑似会社準備 ・どういう会社を作るか ・欲しい人材
3		
4		
5		
6		
7		
8	キャリアカウンセリング	
9		
10	就職活動の方法と流れ	会社設立準備

11		
12	採用試験対策	採用試験準備
13		
14		
15		
16		
17	採用試験	
18	採用試験回顧	
19	一般常識・社会常識学習	
20		
21	ビジネスマナー・お金について学ぶ	
22		
23	入社式参加	入社式準備
24		
25	入社後の研修	入社後の研修実施
26		
27		
28		
29		
30		
31	名刺作成体験	
32		
33	キャリアカウンセリング	
34		
35	業務受注、業務内容など確認	
36	業務①	業務①（サポート）
37		
38		
39		
40	まとめ	

【2019 年度前期実施内容】

前期実施内容			
回数	実施内容		詳細
	1 年目	2 年目	
1	学習スケジュールの確認。 授業ファイル作り。自分の生活について。	学習スケジュールの確認。授業ファイル作り。 自分の生活について。	【合同】就労体験の授業について説明。プリントのファイル作り。終了後、自分の生活で大切にしたい事を、話しあった。
2	業務体験 (貼り付ける作業)	業務体験 (パソコン作業)	【合同】業務体験の一環で、教室の貼り紙作成を依頼。パソコンで張り紙を作成する作業、作成できたものを、ラミネートする作業と、貼り付ける作業をお願いした。
3	お店出店ゲーム	お店出店ゲーム	【合同】ワークシートを使用した、お店を出店するゲーム。ワークシートを使用しながら、どのようなお店がいいか、ものを売るためにはどうすればいいのかを話しあった。
4	お店出店ゲーム	お店出店ゲーム	【合同】上記の続きを行った。
5	業務体験 (組み立てる作業)	業務体験 (組み立てる作業)	【合同】業務体験の一環で、購入した傘たてと靴箱の組立を依頼。
6	自分の長所を考える	職業しらべ	【1年目】自己紹介の続き自分の長所について、話しあった。 【2年目】職業しらべ。1つ興味のある職業を選び、その職業について調べた。悩んだ末、花火師を選択した生徒もいた。
7	自分の適性を知ろう	自分の適性を知ろう	【合同】適性診断を実施。自分に合う職業を見つける。

8	言葉の使い方	職業しらべ	<p>【1年目】あいさつの表現・尊敬語・謙譲語などをプリントを使い説明。目上の方への言葉遣いを練習した。敬語なんて話したことない、と言っていた生徒もいた。</p> <p>【2年目】職業しらべ続き。</p>
9	職業しらべ	職業しらべ	<p>【合同】職業しらべ。1つ興味のある職業を選び、その職業について調べ、まとめる。</p>
10	職業しらべ	職業しらべ	<p>【合同】職業しらべ続き。保育士、和菓子職人など個性的な職業を選ぶ生徒も多かった。</p>
11	職業しらべ	今後のスケジュールについて	<p>【1年目】職業しらべ続き。無気力な生徒は、ほぼ何もせず終了した。</p> <p>【2年目】今後の就労体験のスケジュールについて話をした。今年度は会社運営側として、どういう会社を作るか、話しあった。</p>
12	職業しらべ	今後のスケジュールについて	<p>【1年目】職業しらべ続き。</p> <p>【2年目】今後の就労体験のスケジュールについて話をした。今年度は会社運営側として、何ができるか話しあった。今年度は校内でカフェを運営することに決定した。</p>
13	キャリアカウンセリング		<p>【合同】初対面としての挨拶と自己紹介について。氏名と学年、初対面の人に伝えておきたい自分の情報を、それぞれ自由に自己紹介した。その後、人への質問と、質問の対応方法を練習した。Cさんは、最初、苦手、嫌と言っていたが、後半には手を挙げて自ら質問する姿勢も見られた。</p>
14	キャリアカウンセリング		<p>【合同】パーソナルスペースと対話する時の座り方について。教員が2人入り、それぞれペアになって、対面法や90度法、距離感を変化させながら話をしていく中で、自分にとっての心地よい距離感や、違いを感じる事ができた。</p>
15	職業しらべ	職業しらべ	<p>【合同】職業しらべ続き。</p>
16	職業しらべ	職業しらべ	<p>【合同】職業しらべがほぼ完成した。調べる作業、書く作業に、想像以上に時間がかかり、想定以上に書く量や、調べる分野は減らした。それぞれ個性がでた作品になっており、非常に満足気であった。</p>

17	お茶の入れ方・ 出し方・飲み方	お茶の入れ方・ 出し方・飲み方	<p>【合同】お茶の入れ方・出し方を、急須や湯のみ、茶托などを使い練習</p> <p>〈授業の流れ〉①教師：お手本を見せる ②生徒：ワークシートに手順を記入</p> <p>③生徒：一人ひとり、実際にお茶を入れる／お茶を出す</p> <p>〈生徒の様子〉3人とも教師の話をきちんと聞き、お手本を真剣に見て、まじめに取り組んでいた。Aさんは昨年体験しているため、余裕をもって進めていた。お茶を入れる際、少し不安そうな様子だったが、全員おいしいお茶を入れられた。</p>
18	お茶の飲み方	お茶の入れ方・ 出し方・飲み方	<p>【合同】お茶の飲み方を練習／「お茶を入れる→出す→飲む」の通し練習</p> <p>〈授業の流れ〉①教師：お手本を見せる ②生徒：お茶の飲み方の練習 ③通し練習</p> <p>〈生徒の様子〉茶托を扱ったり湯のみでお茶を飲んだりすることがあまりないらしく、最初は慣れない様子でしたが、お手本やワークシートを見ながら習得しようと頑張っていました。</p>
19	6/18 実施カフェについて	6/18 実施カフェについて	<p>【合同】カフェを開く日時、対象のお客さんについて説明。生徒には、前日までの役割、当日の役割、カフェのメニュー、レイアウトについて考えてもらった。中心に主体的に考えてくれる生徒も出た。カフェのメニューについては、一旦制約ををつけず、自由に発想してもらうことを心掛けた。</p>
20	6/18 実施カフェについて	6/18 実施カフェについて	<p>【合同】上記内容の続き。</p>
21	6/18 実施カフェについて	6/18 実施カフェについて	<p>【合同】前回の振り返りと、メニュー・値段を決定させた。前回中心で頑張ってくれた生徒が、今日は全く乗り気ではなく、質問をしても、ほとんど言葉を発することはなかった。その分、他の生徒が積極的に意見を出してくれた。</p>
22	6/18 実施カフェについて	6/18 実施カフェについて	<p>【合同】メニュー表を作成した。全員の希望で、パソコンでの作成となった。言葉を発することがない生徒が、一生懸命取り組んでいた。各々のメニュー表が完成した。</p>

23	キャリアカウンセリング		<p>【合同】最初に1分間それぞれ近況報告をした。前回に続き、コミュニケーションに関して学習。言語以外のコミュニケーション手段について、学んだ。(バーバルとノンバーバル)うなづきやあいづち、声、表情、目線、姿勢、動作を実際に体験した。また、している人を見て、感じたことを共有した。</p>
24	キャリアカウンセリング		<p>【合同】前の授業に学んだこと、感じたことを、復習しながら、ワークを進めた。(ノンバーバル コミュニケーション)</p> <p>(ワーク①)話を聞きながら、自分のノンバーバルの反応をチェックする。また、ペアの人に、感じたことを伝えてもらう。あいづちのバリエーションや姿勢や動作を確認する。</p> <p>(ワーク②)2パターンで話を聞いてもらい、ノンバーバルの影響について、話し合う。①会話に合わせて、うなづきやあいづちをしてもらう②ノンバーバルの反応を一切せずに聞いてもらう。</p>
25	6/18 実施カフェについて	6/18 実施カフェについて	<p>【合同】メニュー表の作成の続き。前回一旦完了していたが、各々もう少し付け足したいことがあるようで、時間をとった。2年目の生徒が、2人に作成の仕方を教えながら、進めてくれた。できた生徒からラミネートをして、メニュー表を完成させた。</p>
26	6/18 実施カフェについて	6/18 実施カフェについて	<p>【合同】当日の流れを打ち合わせ。後半は、カフェにくるお客さんとコミュニケーションをとる時の、言葉遣いを学習した。Cさんは、気持ちが悪くならず、途中から授業に参加せず、机に突っ伏していた。授業後に話をしてみると、カフェは面倒でしたくない、と言っていた。2年目の生徒は、昨年度も言葉遣いについて学習しているため、1年目の生徒に言葉遣いを教えてくれたり、見本を見せてくれたり、終始サポートしてくれた。</p>
27	6/18 実施カフェについて	6/18 実施カフェについて	<p>【合同】当日の買い出しを行った。当日のことをイメージしながらお菓子・飲み物・コップなど選んでくれた。なかには、前回同様気持ちが乗らず、1人で店内のどこかに行ってしまう、買い物にもほぼ参加することはない生徒もいた。</p>

28	6/18 実施カフェについて	6/18 実施カフェについて	<p>【合同】教室に戻り、当日のレイアウトを考えた。お客さん（中等部の生徒・教職員）が楽しんでもらえるように席の配置や、業務をやすくするためにキッチンの配置も考えた。無気力な生徒へは、声掛けをしたが、反応が全くなく、授業に参加できなかった。</p>
29	カフェ開店	カフェ開店	<p>【合同】遅刻なく集合・前回まで無気力な生徒は、今日は朝から元気で、今までの無気力がなかったかのように、積極的に動いてくれた。カフェは、2部制でおこなった。1部は中等部の生徒のお客さんが中心であった。中等部の生徒には事前に模擬通貨を渡しており、説明はしていたが、お互い緊張しており、店員とお客さんとして、意思疎通が難しい場面もあった。第1部と第2部の間には、机に番号をつけた方が注文時の間違いを防げるのではないかと生徒から提案があり、机に番号を貼り付けた。教員が言わなくても、自ら進んで机を拭いたり、お客さんに対して挨拶したり、靴箱の位置を伝えたり、経験を通じて学んでいることを実感した。途中、会計の計算を間違えたり、メニューを書き間違えたり、聞き間違えたりするアクシデントはあったが、無事終了し、3人とも、達成感であふれていた。</p>
30	カフェ開店	カフェ開店	<p>【合同】遅刻なく集合・前回まで無気力な生徒は、今日は朝から元気で、今までの無気力がなかったかのように、積極的に動いてくれた。カフェは、2部制でおこなった。1部は中等部の生徒のお客さんが中心であった。中等部の生徒には事前に模擬通貨を渡しており、説明はしていたが、お互い緊張しており、店員とお客さんとして、意思疎通が難しい場面もあった。第1部と第2部の間には、机に番号をつけた方が注文時の間違いを防げるのではないかと生徒から提案があり、机に番号を貼り付けた。教員が言わなくても、自ら進んで机を拭いたり、お客さんに対して挨拶したり、靴箱の位置を伝えたり、経験を通じて学んでいることを実感した。途中、会計の計算を間違えたり、メニューを書き間違えたり、聞き間違えたりするアクシデントはあったが、無事終了し、3人とも、達成感であふれていた。</p>
31	小島先生のキャリア学習		<p>【合同】出席者が最近腹が立ったこと、感動したことを通し、感情で訴えかけること、理屈で訴えていることをレクチャーしていただいた。意欲的に参加していた生徒が多かったが、中には「最近腹が立ったことや感動したことがない」など無関心だった（本当は恥ずかしくて、表現ができないのかもしれない）。</p>
32	小島先生のキャリア学習		<p>【合同】ペアになって、お互いの悩みを相談。1人7分間でお話しし、聞き手は意見をせずに聞くだけ。どれだけ聞き手の話を引き出すかがポイントとなった。小島先生からのレクチャーを3人とも興味深く聞いていたため、話しているときに適度に相槌を行うことができ、話を引き出すことができていた。</p>

33	小島先生のキャリア学習		<p>【合同】自分も相手も大切にしたい、お互い気持ちの良いコミュニケーションをとるためのトレーニング方法を学んだ。また、顔の表情や目線、身体の姿勢や動作、声のトーンや大きさなど変えながら、どういう気持ちになるか、気持ちを共有した。</p>
34	小島先生のキャリア学習		<p>【合同】前の授業に学んだこと、感じたことを、復習しながら、様々な場面での表現トレーニングを行った。①並んでいるのに割り込もうとする人に対して②待ち合わせに何度も遅れてくる人に対して③パーティーでとても素敵なドレスを着ている友人に対して④話し合いで参加者の意見がとても素晴らしいと感じた時 苦手な生徒も、最初は言いたくない、と拒否していたが、照れながらも少しずつ、言葉を発していた。 残り時間は、プチ瞑想を実施。脳の休息やストレス対策に効果的だと教えていただいた。全員、真面目に取り組んでいた。</p>
35	カフェの反省と抱負	カフェの反省と抱負	<p>カフェでの売り上げ金額を計算。計算が苦手な生徒は、かなり手間取っていたが、最終的に、みんな協力して金額を合わせることができた。その後、今回のカフェ運営の反省点、次回の抱負について、話し合った。</p>
36	業務体験(事務作業)	業務体験(事務作業)	<p>【合同】ポスター折りやパンフレットをセットする作業を実施。腕が痛い、裏でこんなに大変な事をしているなんてびっくりしたという感想がきけた。</p>
37	漢字検定学習	進路指導	<p>【1年目】漢字検定の対策プリントを用いて学習。漢字が苦手な生徒、ホワイトボードに漢字を大きく書くと、問題を解くことができた。漢字の問題を解くことが得意な生徒は、すらすらと解けていた。 【2年目】大学入試のための進路指導を実施。面接練習。</p>
38	コンプリメントシャワー・お箸の使い方・発声練習	進路指導	<p>【1年目】お箸の使い方を学習し、お箸の正しい持ち方や取り方、置き方を割り箸を使って練習した。また、マナー違反といわれるお箸の使い方についても学習した。(ワークシートに名称を記入) 早口言葉のプリントを活用し、発声練習を行い、漢字の読みも確認。とても楽しそうに取り組めた生徒も多くあったが、文字を読</p>

			<p>むことが苦手な生徒には、自分のペースで練習するよう促しおこなった。</p> <p>コンプリメントシャワーの活動を通し、クラスメイトや先生の良いところを各々伝え合った。</p> <p>【2年目】大学入試のための進路指導を実施。面接練習。</p>
39	掃除	掃除	<p>【合同】教室を掃除した。掃除用の洗剤を使うのではなく、新聞紙を用いて、窓ふきを行った（新聞紙には油の成分が含まれおり、窓の汚れを落とすことができる）。生徒は、本当に新聞紙できれいにするのができるのかという疑問があったが、実践すると思いのほかきれいにするのができて驚いていた。その他、棚の整理や床の雑巾がけを行った。</p>
40	掃除	掃除	<p>【合同】事務センター2階の122教室を掃除した。2時間目同様に新聞紙を用いて窓ふきをしたり、床をほうきで掃き、床を雑巾がけを行った。2限目との違いは、前の時間で要領がわかり、スムーズにできていた。仲間と助け合いながら机を運んだり、黒板を拭いたりしていた。</p>

【2019年度前期実施してみた】

○模擬会社の業務をカフェ運営にした経緯

この取り組みに興味を示さない生徒も多く、その中でも積極的に取り込む姿勢が見えた生徒を教員側に引き込み、どんな会社を運営していくか話し合った結果、私たちの生活の中でもなじみがある、カフェ運営を軸とすることに決定した。

○反復練習の効果

何度も同じことを繰り返すうちに、人前でも出来るようになったり、出来ない子に指導したり、反復学習の効果を強く感じた。

○キャリアカウンセラーの必要性和活用方法

今年度は、周りとの距離感やコミュニケーションのとり方が、苦手な生徒が多かった為、コミュニケーションを中心とした授業を中心にすすめていただいた。ワークの中で、普段生徒から聞くことができない本音を聞くこともでき、今後も並行してキャリアカウンセリングの取り組みをおこなっていきたいと感じた。キャリアカウンセリングの時間は気分がのらなくても、授業に参加している生徒も多く、比較的気持ちは安定しているように感じた。教員とキャリアカウンセラーが、同じ目的に向かい生徒の情報を共有し、連携しながら授業を進めること、また、授業内でキャリアカウンセラーを活用することで、教員だけではつかめない情報や視点を学ぶことができ、支援を要する生徒へのサポートの厚みが増

したように感じた。

【反省点と改善点】

- 1年目と2年目で、社員と経営者で、明確に分けてすすめたかったが、生徒の出席の人数や性格、関係性などを考慮すると、前期は、結果的に合同の授業も多かった。ただ、2年目の生徒は上級生として、見本になってくれることも多く、後期も様子を見ながら、最善の形を考えていきたい。
- どの作業をするにしても、想像以上に時間がかかった。また、何かを書き写すことや、カフェでの金額の足し算も、間違ふ事が多かった。漢字や計算も、他の授業で並行して学んでいく必要があると感じた。職業しらべは、2, 3時間で終わる予定であったが、結果倍以上の時間がかかった。また、パソコンでのメニュー表の作成に関しても、想像以上の時間がかかった。後期は、役割分担をしたり、生徒の様子を確認しながら、様々な経験ができる方法や適性を考えていきたい。
- カフェ開店前の数週間は、新しい事をするにあたって、生徒の気持ちが不安定になり、様々な問題がでてきたが、当日は皆笑顔で、最後まで責任をもって取り組むことができた。生徒の感想をみても、生徒にとって、非常に良い経験になったと感じている。

②第2回検討会議

2019年12月20日（金）9時00分から11時00分 八洲学園高等学校 横浜分校

実施内容

研究趣旨・概要説明及び今年度の取り組み内容・予定確認

外部アドバイザー・八洲学園高校担当者、その他教員紹介

勉強会・関西キャンパス報告

検討会議

研究実施報告（八洲学園高等学校）

研究実施報告（技能連携校 町田みのり高等部）

アドバイザー助言、検討、意見交換、質疑応答

その他

出席者名簿

氏名	現職
伊藤 京子	公立学校共済組合関東中央病院 精神科精神保健福祉士 作業療法士
東鬼 裕子	スクールソーシャルワーカー、就労支援コーディネーター
林尻 悟	一般社団法人 障がい者・高齢者じりつ支援機構 代表理事
松隈 信一郎	一般財団法人ストレンクス協会代表
森下 優子	立正大学キャリアカウンセラー、他
林 周剛	八洲学園高等学校 校長
吉田 士文	八洲学園高等学校 教頭
多田 浩之	八洲学園高等学校 教頭兼みのり高等部校長
南條 将範	八洲学園高等学校 教頭
五味 美和	八洲学園高等学校 進路指導部長・町田分室兼みのり高等部主任
花田 久仁彦	八洲学園高等学校 教諭
吉田 洵	八洲学園高等学校 教諭
寺西 美加子	八洲学園高等学校 教諭
熊谷 憲子	八洲学園高等学校 教諭
平井 美穂	八洲学園高等学校 池袋キャンパス主任
岩谷 彰太	八洲学園高等学校 教諭

【八洲学園高等学校 実施報告】 報告者 寺西美加子教諭
 前期の実績をもとに後期の予定案を作成し直した。

【2019 年度後期実施予定案】

2019 後期実施案② (2019.09 作成)		
実施内容		
回数	1 年目	2 年目
41	役割分担、スケジュール確認	
42	キャリアカウンセリング	
43		
44	カフェ準備 (店員)	カフェ準備 (運営)
45		
46		
47		
48		
49	カフェ開店	カフェ開店 (サポート)
50		
51	反省会	
52		
53	キャリアカウンセリング	
54		
55	接客マナー学習	
56		
57	カフェ準備 (店員)	カフェ準備 (運営)
58		
59		
60		
61		
62	カフェ開店	

63		カフェ開店 (サポート)
64	反省会	
65		
66	キャリアカウンセリング	
67		
68	お金について学習	
69		
70	業務 (学内での内職や事務作業が中心)	業務 (人と関わる業務や外部での業務が中心)
71		
72		
73		
74		
75		
76	反省会	反省会
77	キャリアカウンセリング	
78		
79	まとめ	まとめ
80	お別れ会	お別れ会

【2019 年度後期実施案】

2019 後期実施内容			
実施内容			
	実施内容（項目） 1 年目	実施内容（項目） 2 年目	実施内容詳細・報告事項
41	オリエンテーション 文化祭について	オリエンテーション 文化祭について	<p>【合同】 11月2日に文化祭で飲食店をすることを伝えた。メニューは生徒の意見も聞いたが、現実的なメニューを最終的に教員が決定した。人数も少なく、体力がない生徒も多いため、今回の文化祭では、時間を決めて2部制にし、午前30分間、午後30分間、食品を提供することになった。生徒には、午前は、肉巻きおにぎり串・フランクフルト、午後は、ドーナツ&ジュースを提供すると伝えた。今後、11月2日の文化祭までに、どのような準備をする必要があるのか、説明した。</p>
42	就労体験（文化祭模擬店）	就労体験（文化祭模擬店）	<p>【合同】 お店の名前を考えた。お店の名前は、特に案がなくまとまらなかった。各自タブレットを用い、他校で実施されている文化祭について調べさせた。どう調べたらよいかわからない生徒には、どういう言葉を検索するとよいか、指示した。最終的に、『八洲キッチン』に決定した。</p>
43	就労体験（文化祭模擬店）	就労体験（文化祭模擬店）	<p>【合同】 当日の準備物を話し合い。ある程度、必要なものを教員が表にまとめ、その表を埋めていく形にした。タブレットを使用したり、近くのお店に商品や値段を調べに行ったりしながら、表の完成を目指した。2年目のAさんには、値段の上限を伝え、その上限を超えないよう、考えるよう伝えた。1年目の生徒に関しては、金額の上限等は伝えず、自由に調べさせた。楽しんで、取り組むことができていた。</p>

44	就労体験（文化祭模擬店）	就労体験（文化祭模擬店）	<p>【1年目】チラシ、看板作り。折り紙を使い、動画を見ながら、自由に作成をすすめた。</p> <p>【2年目】飲食店をする中で、準備物、出店許可証の作成等、文化祭までにしなければならぬことを一覧にし、教員とともにすすめていった。</p>
45	就労体験（文化祭模擬店）	就労体験（文化祭模擬店）	【1年目】 【2年目】 前の授業の続き。
46	就労体験（文化祭模擬店）	就労体験（文化祭模擬店）	【合同】 チラシ、看板作り
47	就労体験（文化祭模擬店）	就労体験（文化祭模擬店）	<p>【1年目】文化祭前の時期、気持ちが不安定になり、欠席者が増加。</p> <p>【2年目】教員とともに買い出し。事前に値段を調べ、購入の数も決めていたので、スムーズに購入することができた。</p>
48	就労体験（文化祭模擬店）	就労体験（文化祭模擬店）	<p>【1年目】文化祭前の時期、気持ちが不安定になり、欠席が引き続き増加傾向。</p> <p>【2年目】購入したものを、冷蔵庫に保管。今回は冷凍食品が多いため、2つの校舎の冷凍庫を使用。無事、すべて冷凍庫に保管することができた。また、購入数も計画表と見比べながら確認した。</p>
49	就労体験（文化祭模擬店）	就労体験（文化祭模擬店）	<p>【共通】試作日。肉巻きおにぎり串は湯煎解凍して、袋から出す。フランクフルトは湯煎解凍後にフライパンで焼き目をつける。ドーナツは冷凍庫からだし、自然解凍する。今回はすべて冷凍食品にしたため、どれも作業工程は少ないが、計3時間ほどかかった。自然解凍の商品は、どのくらいで完全に解凍されるかわからず、1時間ごとに様子をみた。2年目の生徒が率先して、すすめてくれた。ドーナツをどういう風に提供するか話し合った。色々な案がでたが、衛星面も考え、袋にいれたまま提供することになった。</p>

50	就労体験（文化祭模擬店）	就労体験（文化祭模擬店）	<p>【1年目】当日使用する教室内で、準備をした。何をすればよいかわからず、動きが止まっている場面も多かったが、細かく指示をだすと、動くことができていた。ガムテープで輪っかを作ったり、マーカーで色を塗ったりすることが苦手で手間取っていた。</p> <p>【2年目】今まで率先して動いてくれていた生徒が、プレッシャーからか、体調不良で欠席。家では荒れているよう。</p>
	文化祭第一部	文化祭第一部	<p>【1年目】登校してすぐ、生徒の一人が急に今日は法事だから、午後から早退すると言い出した。最近本番当日になると、急に予定があると言い出し、欠席したり、早退したりする生徒が増えている。お昼を挟んで午後に学校にいることが嫌な様子。ただ、午前中はとても頑張ってくれた。</p> <p>【2年目】リーダー役の生徒が集合時間に来ず、心配していたが、少し遅れて到着。開店までに昨日完成できなかった看板を最後まで作成し、無事完成させた。いつもよりテンションが低く、終始無言だったが、黙々と作業をし、開店時には笑顔も見られた。</p> <p>【第一部】肉巻きおにぎり串とフランクフルトを販売。模擬ではなく、実際にお金を使っての販売は初めての経験でとても皆緊張していた。接客の流れは何度も練習していたが、お客さんがたくさん来たことで思考が停止してしまい、教員が主導する部分も多かった。1部は15分ほどで完売し、大盛況に終わった。反省点や気づきがたくさんあったようで、終了後には各自改善点等感じたことをきかせてくれた。</p>

	文化祭第二部	文化祭第二部	<p>【第二部】ドーナツ&ジュースを販売。第一部終了後、反省点を共有したので、スムーズに進む予定だったが。バンド発表の時間と重なりお客さんが激減した。生徒もテンションが低くなってしまったので、教員が廊下で呼び込みをし、はげましながらなんとか完売した。</p> <p>【閉会式】文化祭終了後、閉会式があった。Aさんが、みんなの前で1言マイクで話すことになった。普段からそういう経験は全くないので、とても心配したが、今日1日のことをしっかり振り返りながら自分の気持ちを言葉にすることができ、2年間での成長を感じた。</p>
51	キャリアカウンセリング①	キャリアカウンセリング①	<p>【合同】小島先生によるキャリアカウンセリング。後期もコミュニケーションについて授業を進めていただいた。今回は、言葉のトレーニング（肯定表現と否定表現）について。二重の否定表現について最初に教わった。『緊張しないで話す』等。『緊張』『しない』という二重の否定表現を使用することは、問題解決の表現としては適切ではないため、柔軟な発想で肯定表現で言い換える（『堂々と話す』『ゆっくり大きな声で話す』）というトレーニングを行った。生徒たちは難しい…と言いながらも楽しみながら、実践。笑い声もきこえ、楽しそうに受講していた。教員も2名同席。</p>
52	キャリアカウンセリング①	キャリアカウンセリング①	<p>【合同】前の時間のトレーニングを踏まえて、半年後、1年後の『良い目標』について、目標を具体化する練習をおこなった。</p> <p>①目標は『〇〇したい』という肯定表現を用いる、②大きな目標ではなく小さな目標にする、③抽象的な表現ではなく具体的な目標にする、④目標が実現された時の具体的なイメージを持つ、等のポイントを意識しながら、ペアワークで目標を具体化する問いかけ（質問）をする練習をした。教員</p>

			も2名同席して、サポートしながら進めた。
53	文化祭模擬店の振り返り	文化祭模擬店の振り返り	【合同】文化祭の振り返り。ことばで表現することが苦手な生徒も多いため、パソコンに思い思いの気持ちをなんでも入力してもらった。みんな自分の思いをしっかりと書いてくれた。最後に共有した。
54	文化祭模擬店の振り返り	文化祭模擬店の振り返り	【合同】文化祭の片付け 【2年目】文化祭の売り上げ等計算し、収支を振り返った。
55	社会常識	社会常識	【1年目】ニュース検定5級を用い学習 【2年目】ニュース検定4、3級を用い学習
56	社会常識	社会常識	【1年目】ニュース検定5級を用い学習 【2年目】ニュース検定4、3級を用い学習
57	キャリアカウンセリング②	キャリアカウンセリング②	【合同】小島先生によるキャリアカウンセリング。「目標を実現するために」というテーマで、これまでの人生を振り返り、自分が実現してきたと思われることを皆で共有した。無意識に（自然に）実現したこと、意識して実現したものに分けて考えた。○無意識に実現してきたもの→「立つ、寝る、噛む、食べる」○意識して実現したもの→「計算できる、スポーツできる、料理ができる」など意見が挙がった。皆自由に発言した。また、目標と目的の関係について、学んだ。教員も2名同席。

58	キャリアカウンセリング②	キャリアカウンセリング②	<p>【合同】2限目のレクチャーを実践。ペアワークでは目標と目的を明確にする問いかけ（質問）を練習した。ペアワークでは、最初に掲げた目標が、目的を問いかけることによってぶれていないのかを検証。生徒たちは、問いかけることに苦戦をしていたが、相手が発言した言葉を一生懸命聞きとろうと努力していた。教員も2名同席して、サポートしながら進めた。</p>
59	就労体験（軽作業）	就労体験（軽作業）	<p>【1年目】冊子レポートの在庫数を数える。何か所か間違いもでたが、集中して黙々と作業を進めることができていた。中には頑張り過ぎた生徒はかなり疲れた様子で、終了後は机に突っ伏してぐったりしていた。</p> <p>【2年目】冊子レポートの在庫数を、表にする作業をした。途中で数の入力はずれてしまったが、自分で気づき訂正したことで、正確な表を完成させることができた。週に2回、パソコンの授業を受けているため、細かい部分はサポートしたが、概ね自力で入力できていた。</p>
60	社会常識	社会常識	<p>【1年目】ニュース検定5級を用い学習</p> <p>【2年目】『おとなドリル』を使用し、お金について学んだ。</p>
61	カフェ準備	カフェ準備	<p>【合同】今回は3回目のカフェ運営になるため、できる限り生徒主体でできるよう、すすめた。まずはメニュー決め。タブレットで各々冬らしいスイーツについて調べた。以前に比べて、随分タブレットの使用に慣れてきている様子。</p>
62	カフェ準備	カフェ準備	<p>【合同】メニュー決めの続き。調べたメニューを教員主導で共有。その中から現実的に可能なものを選択。和菓子とお茶にすることに決定した。お店の名前は、『八洲の和風カフェ』普通がいいとのこと。コンセプトは『ごゆるりと』</p>

63	カフェメニュー決め	カフェメニュー決め	<p>【合同】和菓子はどこで購入するか、お茶はどのようなお茶にするか、購入場所、提供方法を話し合った。和菓子屋さんには学校近くのお店にしようと教員が提案したが、生徒からの強い希望で、堺で馴染みのある和菓子屋さんに決定した。あらかじめ、教員側が金額の上限を設定。和菓子屋さんのサイトに商品説明と商品の金額と写真がのっていたため、タブレットを使用しながら、その値段内におさまるお菓子を探した。日頃、めんどくさがる生徒も、よく行く和菓子屋さんなので張り切っており、色々安めのお菓子を見つけては、嬉しそうに報告してくれた。単価を計算することが難しく感じる生徒が多かったため、教員がサポートしながら、進めた。</p>
64	カフェメニュー表作成	カフェメニュー表作成	<p>【1年目】メニュー表作成。1年生は手書きが苦手な生徒が多く、メニューは印刷し、貼り付けることになった。ある生徒は最近ハマっている折り紙で、好きなように装飾した。</p> <p>【2年目】お菓子の値段とお茶の値段設定について検討。利益がでる、計算がしやすい等、条件に見合う金額に決定した。</p>
65	お茶の入れ方（復習）	お茶の入れ方（復習）	<p>【2年目】今回のカフェでは、緑茶を提供することになった。ホットは茶葉からいれ、アイスはペットボトルのお茶を使用することに決定。昨年度と今年度を実施したお茶の入れ方を復習。何回も練習しているため、スムーズに実践することができた。また、実際に提供の流れを確認し、あいまいになっている点を、解決した。</p>
66	カフェ準備	カフェ準備	<p>【合同】メニュー表作成。</p>
67	カフェ開店	カフェ開店	<p>【合同】前期同様、2部制で実施。1部は中等部の生徒、2部は教員対象。今回は、前期の反省を踏まえ、金額をわかりやすく設定すること、メニューを少なめにすること、机に番号を貼り、誰が注文したのか、</p>
68	カフェ開店	カフェ開店	

		<p>わからなくなならないよう意識した。接客に必要な挨拶や流れは事前に何度も確認し練習していたが、実際にお客さんがくると、生徒によっては、硬直し言葉がでてこない（声がとても小さい）、次の動きがわからない、お金をいただく前にお金を渡してしまう等の問題があり、教員が横につき、小さい声で次の動きを伝えるところからスタートした。今までの経験から、自ら率先して行動がとれる時も多くある生徒もいて、反復の大切さを感じた。お茶は皆、練習の成果もあり、落ち着いて淹れることができていた。11月12月は体調不良が続いていた生徒が、ほとんど座っている状態であったが、自分ができることをしようとする姿勢が見られた。まずは最初から最後まで参加できたことが良かったと思う。次回の授業の際、カフェの振り返りをする予定。</p>
	69回～80回は、2020年1～3月実施予定	

【2019年度後期（途中）実施してみて】

○1年目、2年目の役割：

2年目の生徒の一部は、この1年半で多くの経験をしたため、後期は、教員の指示で動くだけではなく、運営面でも様々なアイデアを出してくれた。以前に比べて、自分の気持ちを言葉にしたり、提案したりすることができるようになったように思う。1年目の生徒に関しては、最初から、やりたくない、できない、という生徒が多いため、まずは楽しんで就労を体験してみて、少しずつ様々な事を体験しながら、できることで達成感を得られるよう、心掛けた。

○反復練習の効果：

2年目の生徒は、前期に引き続き、お茶の入れ方や事務作業時等、昨年度経験していることは、できるだけ前にでてもらうようにした。性格上なかなか厳しい生徒も多かったが、複数回経験している事は自信をもって取り組めるようで、反復学習の効果を感じた。何度も反復することで、未経験からくる不安は減ってきていると感じる。また、反復することで、挨拶をしたり、疑問点を言葉にしたり、少しずつだが、確実にできることが増えてきている生徒も増加傾向になりと感じた。

○キャリアカウンセラーの必要性と活用方法

対象生徒の多くは、周りとの距離感やコミュニケーションのとり方が、苦手あるため、後期もコミュニケーションをメインとした授業を中心にすすめてもらった。ワークの中で、普段生徒から聞くことができない本音を聞くこともでき、今後も並行してキャリアカウンセリングの取り組みをおこなっていきたいと感じた。

【2019年度後期（途中）実施しての反省点と改善点】

○どの作業をするにしても、想像以上に時間がかかった。また、接客や軽作業をする際、できないことがあると、ダメとはわかりつつ、教員がすぐに手を差し伸べてしまったり、代わりにしてしまったりすることもあった。生徒主導することは現時点で現実的ではないが、なんでも先回りしてするのではなく、時には、見守る、待つことも大切だと感じる。

○カフェでのお金の計算は、前回アドバイスいただいたように、わかりやすい金額設定にしたところ、計算ミスが随分減った。

○適材適所を感じる場面が多かった。生徒によって、得意、不得意な事が異なり、意外な事ができたり、できなかつたり、驚くことも多かった。人数の関係上、役割分担がなかなか難しい時もあるが、様々な経験ができるよう考えつつ、今後は、生徒の適性も考えていきたい。

○後期は、タブレットの使用を増やした。使用の仕方がわからない生徒もおり、1から説明した。スマホを皆持っているため、すぐに活用することに慣れた。前期、折り紙の本をみても、全く折れなかった生徒は、手先を動かす作業が苦手と思っていたが、折り紙の折り方の動画を見ながらであると、複雑な作品でも自分が作りたいものであれば、自力で完成させることができていた。紙媒体で文字や図を見ることが苦手でも、人により、タブレットの活用が有効であると感じた。

○気持ちに波がある生徒が多く、本番前になると、不安定になり、体調不良になったり、良くない態度をとり周りに影響を与えたり、欠席したりする生徒が目立った。生徒に声掛けをしても、なかなか届かない状態である。どうすることが克服するために有効か、指導方法について、引き続きアドバイスをいただきながら、考えていきたい。

就労体験報告① 報告者 吉田洵教諭

【 大阪中央校 】

○実施日：10月11日(金)～11月26日(火)

○対象者：ベーシッククラス(全年次26名)

○実施内容：模擬会社設立・運営

全7回	日時	曜日	内容	出席者数
1回目	10月11日	金	会社設立(2社)、資金分配	19
2回目	10月15日	火	社名決定、株式会社設立登記申請書記入・提出	13
3回目	10月30日	水	店舗運営準備：商品選定	13
4回目	11月15日	金	店舗運営準備：商品選定・広告作成	10
5回目	11月22日	金	店舗運営準備：必要物の買い出し・商品価格設定等	12
6回目	11月26日	火	店舗(カフェ)運営・純利益確認	9
7回目	1月15日	水	まとめ(報告書は省略)	-



【1回目：生徒の様子・内容説明】

対象生徒が26名(当日出席は19名)と多いため、1社ではなく2社を設立し、それぞれの会社でのカフェ運営が目標であると説明。会社は、「飲み物を販売する会社」と「食べ物を販売する会社」で各希望によってわかれてもらった。

後期からの取組だったため、主旨の説明・理解から実施した。対象が19名と多いため一度に全員へ同じだけの意識付けは困難だったが、1回目は割と楽しそうに会社グループ分けを行っていた。また、代表取締役になりたがる生徒がおらず、押し付け合いの結果、じゃんけんでの決定となった。

カフェのお客は、中等部の生徒を想定。カフェ実施日時は、中等部のフリーの時間と合わせた。

【2回目・3回目：生徒の様子・内容説明】

2回目で会社名を決定し、扱う商品の選定を行った。それぞれインターネットを使用し、商品を検討。各社の予算は、1回目のくじ引きで決まっていた。ただ、予算的には低めになるようこちらで設定しており、金融機関からの借入れを行うこと(書類作成・電話連絡等)を目標にしていたが、各社頑なに借入れを拒否。少ない予算で運営をしようとするため、商品選定に制約がかかり時間がかかった。また、各社のメンバーが必ずしも普段から仲が良い(打ち解けている)メンバーではなかったため、話し合いを進めるにも時間がかかったが、各社、一部の生徒が積極的に引っ張る形で商品を選定していった。

【4回目・5回目：生徒の様子・内容説明】

3回目にて、一部の生徒(1年次生男子)の中で、店舗運営は企画も準備も運営も大変で面倒くさいため、授業を休んでしまえばよいという発言があり、その発言を実行するように4回目より欠席者が増えた。結果、1年次生が固まっていたA社は、きちんと継続しての出席は1名のみとなり、その生徒への負担が大きくなってしまった。3回目までで話し合っていた内容も一度白紙に戻し、1名でも実施が可能な内容へ変更した。広告作成も、下地枠を3パターン学校側で用意し、商品案内のみ生徒へ入力させる方法をとった。

両社 出席人数が減少中(11/22出席：A社、2名(中2名遅刻)、B社、2名出席(中1名遅刻))、中

【6回目：生徒の様子・内容説明】

カフェ運営当日、教員は3名体制で実施。懸念していたA社は、継続して出席していた生徒と、1・2回目に全体を引っ張ってくれていた生徒の2名が登校。2名での運営となった。B社は、1回目から継続して3名の3年次生の生徒が引っ張ってくれており、当日もその3名が中心となり運営。レジ(注文を受ける)、商品を用意する、お客さんを呼び込む、看板・飾りを作成する、客席を用意するなど、教員側が支持する部分もあったが、それぞれ仕事をおこなうことができた。

4回目で生徒が作成し、中等部で配布してもらっていたチラシをみた中等部の生徒が、中等部担当の先生と一緒に来店してくれたため、店舗運営の部分も形になっていた。

○生徒たちの反応

- ・積極的に取り組みたい生徒は、いろいろな案を出して進めていったが、活動自体に消極的な生徒は、授業への出席自体をしなくなっていった。
- ・初回からカフェ運営当日まで参加していた生徒は、積極性に差はあっても概ね楽しんで参加していた。
- ・準備期間はそれほど積極的に参加ができていなかった生徒も、カフェ当日は何かしらの役割をこなしていた。

<今回の実践を通して教員が感じたこと、良い点、改善点等>

- ・大阪中央校では、「文化祭」や「体育祭」といった、生徒が協力し、主体的に活動する機会がないため、今回の授業はその機会にもなったように思う。全体での意思統一の難しさや、企画したがうまくいくこと、逆に失敗してしまったことなども、各生徒それぞれで体験できていたように思う。
- ・生徒の様子をみても、1社あたりの人数は5名～9名くらいが適性のように感じた。
- ・今年度は、後期が始まってから生徒へ告知・実施と、準備期間が短かったため、出席人数の課題を解決する時間がなかった。次年度以降は半年単位で時間をかけ、生徒のモチベーションをあげるころから実施が必要であると反省した。
- ・準備の中で、「仕事」の発見や、書類作成・電話対応の経験等を入れたかったが、今回は時数的に無理だった。

【 三宮キャンパス 】

○実施日：10月28日(月)～12月16日(月)

○対象者：ベーシッククラス(全年次12名)

○実施内容：カフェ運営

【三宮キャンパス ベーシッククラス 支援を要する生徒紹介】

Aさん：2019年4月入学（2年次）。発達障害があり、コミュニケーション等で対人とぶつかりやすく、毎週1回通院し訓練をしている。初めの半年間はほぼ毎日仲間との会話で入れ違いやSNSでのトラブルによりフォローが必要であった生徒。保護者の協力体制があり、家庭との連携で学習サポートなどを行っている。

Bさん：2019年4月入学（1年次）。小学3年～中学3年まで不登校。高校では皆勤賞である。人付き合いになれていなく、自分に自信がない生徒であるが、仲間ができたことで支援を要する生徒たちへ優しく接してくれている。

Cくん：2019年4月入学（1年次）。自閉症スペクトラム症、不安障害。真面目な性格で仲間思いであるが、納得のいかないことがあったり、朝から気分が悪いと突然教室を出たり、攻撃的な態度に出してしまうことがある。気分の変化が激しく、1日に何度か態度が変わる。中学時代に不登校を経験したが、高校では仲間ができ、体調不良以外は皆勤賞である。

Dさん：2019年4月入学（1年次）。診断は受けておらずグレーの状況であるが、SNSトラブル、日々の喧嘩など、起こる原因のほとんどはDさんから始まっている。感情の起伏が激しい。自意識過剰で、何をするにも中心でなければ苛々してしまい、ひどい時は手を出してしまう時もある。その都度、保護者へ報告をしているが、危機感がない状態で親子で話したり、診断を受ける方向にはいっていない状況である。学校が大好きで、皆勤賞である。

E君：2019年4月入学（1年次）。広汎性発達障害（アスペルガー）、月1回通院し、薬を服用している。中学時代は人間関係のトラブルから不登校となっている。大人しい性格だが、我が強く、納得のいかないことがあるとストレスを溜め、

全5回	日時	曜日	内容	出席者数
1回目	10月28日	月	会社設立：社名決定、役割分担	10
2回目	11月6日	水	店舗運営準備：役割分担（続き）、商品選定 グループごとで装飾品製作、チラシ、ポスター作り	10
3回目	11月18日	月	店舗運営準備：前回の続き、お客様対応（挨拶） 運営準備後：パーソナルスペース、思いやりの学習	11
4回目	11月25日	月	店舗運営準備：お客様対応（注文・レジ）	9
5回目	12月16日	月	店舗（カフェ）運営	8

パニックになってしまうことがある。仲間意識は高いが、一人行動が多い生徒。

【1回目：生徒の様子】

出席者10名。初めにカフェ運営、主旨の説明をするが、手帳をもっている生徒やグレーの生徒（以下支援を要する生徒とする）はお客様のイメージしかなく、あれこれ食べたい飲みたいなどで楽しくなってしまう、落ち着かせてから、ゆっくり再度運営側の体験を説明。仕事体験とわかった途端に元気がなくなり、声を出さなくなった生徒もいた。

初めに会社名を考えさせ発言させたが、真面目に考える生徒もいれば、支援を要する生徒たちはマイブームのネーミングを連発するなど、生徒間では収集がつかなかったため、カフェであることがわかるネーミングに絞ったところ、わかりやすく「喫茶八洲」と決めた。

役割分担は、あらかじめ人数や内容を決めていたが、E君のように一人でやる役割を好む者や、AさんDさんのように誰かとペアでなければ参加できない、したくない生徒がおり、内容よりもその場の環境を重要視していることがわかった。放課後を利用し、役割分担を決めることができた。

【2回目：生徒の様子】

出席者10名。前回の役割分担の続きからで、放課後決めた役割分担をBさんに発表してもらい、全員納得して決定とした。あらかじめ何を作成するかを知らせていたためか、予想以上にそれぞれが準備作業を進めることができた。やる気になった上記の生徒たちは放課後も準備に励んでくれていたが、Aさんは主旨を忘れてしまうことが多々あり、楽しい雰囲気から、完成したポスターなどにお絵かきをしてしまい、作り直しとなったり、Dさんは完成した作品が不要なものとの勘違いをしてしまい、捨ててしまうということが何度か見られた。Aさん・Dさんの行動から喧嘩になってしまうため、毎回教員のフォローが必要となった。E君は、コンピュータに興味があり、初めて使うソフトでも自力でデザインを見つけたりと見やすいメニュー表を作成してくれた。

【3回目：生徒の様子】

出席者 11 名。前回の続き。放課後も準備をしたことから、3 回目の授業でほぼ準備が完了した。余った時間で挨拶の練習、受け答えを学習したところ、緊張や恥ずかしさからうまくできず、時間をかけて練習を行った。また、A さん・C 君・D さんは人との距離感が苦手なため、パーソナルスペースを体感してもらい、近づき過ぎないように学習をしてもらった。

【4回目：生徒の様子】

出席者 9 名。接客対応の練習を行った。自信のない生徒が多いので、1 時間かけて一連の流れを練習した。アルバイト経験者は積極的に取り組むことができたが、支援を要する生徒や不登校だった生徒は、相手が知人であっても緊張していた。何度も実践することで、最後は比較的スムーズに対応することができた。

【5回目：生徒の様子】

出席者 8 名。40 分間のカフェ運営に取り組んだ。お客は教員、ベーシッククラスの生徒が順番に交代して実施。適度な緊張で練習の成果を発揮できた生徒もいれば、A さんのように硬直し、次にやることを指示しなければ動けない生徒もいた。E 君は、緊張のあまりレジ場所から一歩も動くことができなかった。D さんは足を怪我してしまい欠席。後半戦は、来客人数が増えても自分から行動できるようになった。E 君は、終始レジ前に立ったままであったが、レジはできた。最後の 10 分は、指示をせずに見守っていたところ、生徒達は仲間の得意な対応を確認し、それぞれ得意な役割に集中していた。少しでも早い対応ができるように頑張り、お客様の出入り挨拶が元気になった。

<今回の実践を通して教員が感じたこと、良い点、改善点等>

- ・三宮キャンパスのベーシッククラスは人数が少ないこともあり、一人ひとりのフォローがしやすかった。
- ・一連の作業よりも、生徒一人ひとりの特性や行動により予想外の問題が起きた。計画の段階でどんな問題が起きるかを把握し、事前に必要な力を身につけさせたり、教員が対応できるようにする準備が必要であると感じた。
- ・カフェ運営を体験したことで、黒板授業よりも実感が沸き、自信に繋がったと感じた。
- ・A さんは最後まで主旨を理解することができなかった。次年度はもっと準備時間を増やし、1 つずつの内容を丁寧に学習し、生徒の気持ちを高めていきたいと感じた。

○生徒たちの反応

支援を要する生徒の方が、主旨を理解すれば授業時間以外にも懸命に取り組もうとする姿勢が見られた。店名など、自分たちで考える内容が難しく感じたり、しんどく感じ欠席してしまう生徒がいた。反対に、

備段階までは全て楽しく出席していたが、実践に近づく不安が強くなり欠席した生徒もいた。

少ない授業時間だったため、できることは限られていたが、実践日に出席した生徒は達成感を感じていた。

①大阪中央校のベーシッククラスは26名を1つのクラスとして活動をしたが、人数が多いと細かなフォローがしにくいので、対応できる人数も意識しなければいけないと感じた。

②生徒のモチベーションをあげることが継続して参加をするきっかけになるのではないかと感じた。そのために、実施時間数の見直しや就労体験前の必要な知識・経験をさせることが大切であることがわかった。

③各キャンパスともに、失敗したことや成功したこと、それぞれが生徒にとって良い経験となり、就労体験を実施することの必要性を改めて感じる事ができた。参加した生徒は、それぞれが達成感を感じることができたり、人との交流の楽しさを経験することができた。

【技能連携校 みのり高等部の紹介とキャリア学習の取り組み報告】 報告者 五味美和教諭

みのり高等部紹介 ◎在籍：3年：10名、2年：13名、1年：15名、入学予定：20名

みのり高等部1年生時間割例

月・火・水・木・金 基本的には6限授業。1コマ50分授業。

		月	火	水	木	金
8:55	HR	HR	HR	HR	HR	HR
9:00	1	①商業科目 (課題研究)	①商業科目 (課題研究)	①商業科目 (課題研究)	⑦美文字	⑩芸術
10:00	2	④普通科目/ 八洲科目	②商業科目 (広告と販売)	②商業科目 (ビジネス基礎)	⑧就労 (広告と販売)	⑪鑑賞タイム
11:00	3	④普通科目/ 八洲科目	②商業科目 (広告と販売)	②商業科目 (ビジネス基礎)	⑧就労 (広告と販売)	④普通科目 数学/英語
12:40	4	②商業科目 (ビジネス基礎)	③ストレッチ タイム	④普通科目/ 八洲科目	⑧就労 (広告と販売)	⑤みのりタイム
13:40	5	②商業科目 (ビジネス基礎)	④普通科目/ ⑥クラブ活動	④普通科目/ 八洲科目	④N検対策/ ⑨キャリア学習	
14:40	6	④普通科目/ 八洲科目	④普通科目/ ⑥クラブ活動	④普通科目/ 八洲科目	④普通科目/ ⑫お掃除タイム	

① 商業科目 (課題研究)

「マイ(学習)チャレンジ」と称しての能動的な学習スタイルで、自分で決めた課題にチャレンジ。

- ② 商業科目：1年次「課題研究」「ビジネス基礎」「広告と販売促進」
2年次「課題研究」「経済活動と法」「簿記」
3年次「課題研究」「情報処理」「マーケティング」
- ③ ストレッチタイム
身体慣らし・体ほぐし運動、レクリエーションゲーム、ビジョントレーニング・眼球運動
- ④ 普通科目：八洲科目、学び直し科目（国・数・英・社・理）
※例：数学が苦手な生徒へは算数の指導法を、口頭の説明だけでなく、視覚に訴える教材使用。
体験的な学習として、理科実験などを取り入れている。社会はニュース検定を題材。
- ⑤ みのりタイム：遠足などの行事、体育行事、調理実習、進路ガイダンス、検定試験など
- ⑥ クラブ活動：芸術（美術・書道・音楽）、スポーツ、クラフト、パソコン、理科実験
- ⑦ 美文字：文字を楽しんで書けるように工夫した授業
- ⑧ 就労：1～3学年合同授業
- ⑨ キャリア学習：年5回実施。SSTなど含めた学習/N検対策
- ⑩ 芸術：季節に合わせた作品作り、一体感を感じることができそうな作品作り
- ⑪ 鑑賞タイム：感性を磨く時間。例) 星野富弘さんの生い立ちや作品に触れるなど。試演会に向けての歌練習や演奏練習、声の劇練習など。

※大きな行事、年3回：遠足、7月：夏祭り、10月：みのり祭、12月：試演会、3月：感謝の会

※生徒は振り返りシートを毎日記入し提出、教員は日報を都度入力し情報共有に努める。

みのり高等部 主な行事 (みのりタイム中心)

月	内容	詳細
4月	避難訓練	市役所などの場所を確認し、最終的にシバヒロという広場でのんびり過ごす。
	雑巾作り	お掃除は当番制で木曜日に行うのでそこで使う雑巾縫いの時間。
	キャリア学習	第1回目。「挨拶」「聴き方」「紙のボールでキャッチボール」
	みのりファーム・	畑作り
	就労	昨年度振り返り、今年度予定
5月	体育/みのり祭準備	学年別で実施。体育に対しては苦手意識の強い生徒も多い。また不慣れな場所へなかなか移動できない生徒もいる。並行して体育がない生徒はみのり祭に向けてのテーマを考えたり、1年生は過去のみのり祭の様子を映像で確認したりする。
	飯盒炊爨	バスで20分程度の場所へ移動して飯盒炊爨。献立は決まっているが、班毎にアレンジさせ、購入もさせ、班内で役割分担を決める。
	みのりファーム	苗植え
	就労	店舗見学・店舗比較発表、スーパーでの価格調査・購入（遠足の準備含め行った）
	理科実験	月1回程度、皆が参加できるような理科実験を行う。「飽和水溶液」
	クラブ活動	月1回程度活動を行い、みのり祭・試演会・陸上大会に向けて準備。
6月	体育/みのり祭準備	学年別で実施。みのり祭に向けても具体的に希望内容などの確認なども行う。
	1学期みのりテスト	商業科目、普通科目（国・数・英・社・理）のテストを実施。
	ボウリング	見学に行くのみもハードルが高い生徒もいる。感覚過敏や人混みが苦手な生徒も多い。
	不登校セミナー	在校生は手伝いとして希望者を募るが、こういった機会に社会経験をさせたいので積極的に募る。
	みのりファーム	野菜収穫（きゅうり・なす・ピーマン・モロヘイヤ・いんげん・蕪・大根など）

	就労	選挙について・候補者演説、選管講話、模擬選挙、野菜収穫
	理科実験	月1回程度、皆が参加できるような理科実験を行う。「金属の電気伝導について」
	クラブ活動	芸術・スポーツ・PC・クラフト・理科/みのり祭・試演会・陸上大会に向けて準備。
7月	八洲科目 スクーリング テスト	支援級から入学した生徒などは試験に慣れていないので、極度の緊張が伴う。試験対策の授業は複数回普通科目の授業でも取り入れ行っている。またこの日も対策に力を入れて行っているが、試験日をずらす生徒も複数名いる。そのため予備日を設けている。
	キャリア学習	第2回目。「誤解のない伝え方」「葉っぱの川流れ」「人に不快・誤解を与えないための分かりあい」
	お疲れ様会・ 終業式・大掃除	親睦会を兼ねて1学期の最後にお疲れ様会を実施。最終日の終業式には、式後全ての机・いすを移動して雑巾がけを全員で行う。
	夏祭り	入学希望の中学生向けに実施。在校生は全員対象ではなく希望者に手伝いを募る。
	みのりファーム	野菜収穫（トマト・なす・ピーマン・いんげん・ヤングコーン・ジャガ芋・枝豆など）
	就労	1学期のまとめ、野菜収穫
	理科実験	月1回程度、皆が参加できるような理科実験を行う。「道管の観察」
8月	クラブ活動	芸術・スポーツ・PC・クラフト・理科/みのり祭・試演会・陸上大会に向けて準備。
	検定試験	漢字検定・ニュース検定は任意で受検。
8月	不登校セミナー	在校生は手伝いとして希望者を募るが、これを機に社会経験をさせたく積極的に募る。
9月	始業式・AED講習	2学期開始の始業式とAED講習を行う。
	遠足（江の島）	電車乗車・団体行動可否確認。
	体育	学年別で実施。
	みのり祭準備	各班で試作や制作に取り組み準備。
	試演会準備	全員で歌う歌決め、演奏希望者の確認など。
	キャリア学習	第3回目。「夢診断」「コンプリメントシャワー」「自尊感情」
	みのりファーム	野菜収穫（トマト・なす・ピーマン・いんげん・ヤングコーン・ジャガ芋・枝豆など）
	就労	働く人調べ&プレゼン、レジ体験
10月	クラブ活動	芸術・スポーツ・PC・クラフト・理科/みのり祭・試演会・陸上大会に向けて準備。
	みのり祭	10月22日の本番まで前週からは毎日準備。
	試演会準備	歌練習、独自楽器制作。
	みのりファーム	野菜収穫（トマト・なす・ピーマン・いんげん・ヤングコーン・ジャガ芋・枝豆など）
	就労	西友接客確認・報告書プレゼン、みのり祭まとめ、市役所について学ぶ
	理科実験	月1回程度、皆が参加できるような理科実験を行う。「ストームグラス」作成
	クラブ活動	芸術・スポーツ・PC・クラフト・理科/みのり祭・試演会・陸上大会に向けて準備。
11月	陸上大会	男子2名・女子1名参加
	職業ガイダンス	職業選択に向けての興味分野の確認などを行う。
	体育	学年別で実施。
	試演会準備	合唱練習、ハンドベル、手作り楽器
	2学期みのり祭テスト	商業科目、普通科目（国・数・英・社・理）のテストを実施。
	遠足（高尾山）	山登りは最もハードルが高く行きたがらない生徒も多い。
	キャリア学習	第4回目。「私のトリセツ」
12月	就労	市役所見学、市役所見学報告、プレゼン
	理科実験	月1回程度、皆が参加できるような理科実験を行う。「密度計算と分離の観察」
	クラブ活動	芸術・スポーツ・PC・クラフト・理科
	八洲科目 スクーリング/テスト	試験対策の授業は複数回普通科目の授業でも取り入れ行っている。またこの日も対策に力を入れて行っているが、試験日をずらす生徒も複数名いる。そのため予備日を設けている。
	試演会	町田市民ホールにて、ステージ上に立つことが目的。合唱・楽器演奏・ダンス。
	※クリスマス会	親睦会を兼ねて2学期の最後にクリスマス会を実施。
12月	※終業式&大掃除	最終日の終業式には、式後全ての机・いすを移動して雑巾がけを全員で行う。
	就労	2月遠足の場所決め
	※調理実習	12/20(金)初回
	理科実験	月1回程度、皆が参加できるような理科実験を行う。「氷の実験とアイス作り」
	クラブ活動	芸術・スポーツ・PC・クラフト・理科
	1	※始業式・初詣
八洲科目		試験対策の授業は複数回普通科目の授業でも取り入れ行っている。またこの日も対策に力

月	スクーリング/テスト	を入れて行っているが、試験日をずらす生徒も複数名いる。そのため予備日を設けている。
	キャリア学習/就労/調理実習/理科実験/クラブ活動/漢字検定	
2月	3学期みのりテスト	商業科目、普通科目（国・教・英・社・理）のテストを実施。
	キャリア学習/就労/調理実習/理科実験/クラブ活動/ニュース検定/年度末遠足	
3月	感謝の会/終業式&大掃除	

みのり高等部 キャリア学習報告 その1

在籍状況 みのり高等部 3年：10名、2年：13名、1年：15名

実施日時 2019年9月19日（木）5限 13:40～14:30

出席者 1～3年合同、出席人数：17名

ねらい ※昨年度と変更なし

- 1、自分と他人の違いを知る
- 2、他人との関り方がわからない生徒が多いので、基本的な人との関りを学ぶ
- 3、他者から見た自分を知り、自己肯定感を高める
- 4、人前で話すことが苦手な生徒が多いため、話すことに少しでも自信を持てるようにする

指導案：本時の展開

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入	5min	・前回の振り返り 「話し方・聴き方チェック」 「葉っぱ（かっぱ）の川流れ」 ・夢診断	前回の振り返りしてから、生徒から集めた夢についてカテゴリ毎に診断していただく	
展開	10min～ 15min	1、自尊感情の説明 2、自分のことをどれくらい尊敬できるかチェックシートで確認	・やり方がわかりにくいいため、事前にしっかり説明必要	
	15min ～20 min	・コンプリメントシャワー	自分の名前を書いた紙をどんどん他の人に回して、良いところなど書いてもらう。	気が付いていない 自分の発見
まとめ	5min	・振り返り、次回予告	・シート記入させる。	

実施後の振り返り

【全体】自分に自信のない生徒が多いので、自分のことをどれくらい尊敬できているかを実際にチェックしてもらい、その後他の人から褒められることの喜びを体験することで自尊感情を高められるのではないかという目的で行った。

【自尊感情チェック】記号や数字が多く、実施するのに時間がかかったが、皆一生懸命に取り組めた。

【コンプリメントシャワー】他の人に褒められることで気持ちが上向きになった生徒も多くみられた。

アンケート集約

- 1、 夢診断を聞いて夢の種類がどんなことを表しているのかわかりましたか。
・ いい夢を見るときもあれば悪い夢を見ることもあるということがわかりました。 / 昔の友達の夢をよく見ていたので今日の夢診断で分かって良かったです。 / 逆に知り合いが死ぬ夢などはよいことがあるかもしれない前兆もあることを知りました。 / まだ僕にはわかりません。 / おじいちゃんの死が影響しているけどあまり意味のない夢だと言われました。 / もっと知りたい。 / 僕の最近の夢は映画を見る感じです、少しスリルがあります。
- 2、 自分のことをどれくらい尊敬できるかを診断するためのチェックシートです。今までのあなたは自分のことを尊敬できていますか。
・ 尊敬できています。 / できている。 / 無口で積極的じゃないから尊敬はあまりできないです。 / 時としては尊敬して時には嫌いに。 / まあまあ自分のことは尊敬しているかも。 / 自分が嫌いなときがありました。 / できた。 / 普通です。 / たぶん、できない。
- 3、 「コンプリメントシャワー」で自分に書かれた内容を見てどうでしたか。
・ うれしかった。 / 絵が上手と書かれていてうれしかったです。 / 自分が思っていたのと同じのが来て少し安心しました。 / みんな優しいですね。 / 「よく知らん」が結構ショックでした。 / うれしい。 / よかったです。
- 4、 最後に、本日のキャリア学習を終えて学んだことを書いてください。
・ 人はそれぞれ思っていることや考えていることが違うということがわかりました。 / 夢診断について勉強できてよかったです。 / 夢で悪い夢を見るのは現実でよいことがあるんだと思いました。 / よい体験でした。 / もっと自分を知りたいし、知ってもらいたいと思いました。 / もっと頑張る。 / 色々ありました。 / 楽しかった。

みのり高等部 キャリア学習報告 その2

在籍状況 みのり高等部 3年：10名、2年：13名、1年：15名

実施日時 2019年11月21日（木）5限 13:40～14:30

出席者 1～3年合同、出席人数：25名

ねらい ※昨年度と変更なし

- 1、自分と他人の違いを知る
- 2、他人との関り方がわからない生徒が多いので、基本的な人との関りを学ぶ
- 3、他者から見た自分を知り、自己肯定感を高める
- 4、人前で話すことが苦手な生徒が多いため、話すことに少しでも自信を持てるようにする

指導案：本時の展開

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入	5min	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り 「自尊感情」 「コンプリメントシャワー」 	前回の振り返り	
展開	40min	<p>◎トリセツを作る</p> <p>1、先生からなぜ必要か話してもらおう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のトリセツをつくる目的は、人間関係を良くする秘訣 ・人は誰でも自分が思ってることと判断基準になるので、「こう思ってるにちがいない」「私のことをわかってくれているはず」など思ってしまう、勘違いや思い違いが起きてしまうことがあります。 <p>こういう心のメカニズムを「透明性錯覚」といいます。</p>	<p>例</p> <p><u>①ステーキ(ハンバーグなどでも)編</u></p> <p>今日は、学校の帰りに、〇〇ちゃんと、ステーキ食べに行きたいなーと思って、LINEしました。</p> <p>「おはよー。今日は、なんか力でないんだよねー。こういう日はステーキがいいよねー」「えー！！朝から、ステーキ食べたいなんて、元気だねー」</p> <p>ステーキ食べにいこう！って言ってくれるかと思ったのに。。。</p> <p><u>②タピオカ編</u></p> <p>朝、テレビで、学校の近くに、タピオカのお店が開店した話題をみて、学校の帰りに行ってみたいなーと思い。。。LINEした。</p> <p>「おはよー。今、テレビ見てたらさあ、学校の近くに、タピオカのお店ができたって！」「そうなんだあ。じゃ学校でねー」</p> <p>えー！！行ってみようかって言ってくれるかと思ったのに</p>	
		<p>2、寸劇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別紙台本の通り ・この劇のように、誰でも言いたいことが言えない、伝わらない、勝手に取り違えはあります。Cさんのように、助けてくれる人が、いつもいつもいるとは限りません。 <p>しかし、やはり、言いたい事を伝えることは難しいです。</p>		

		<p>3、トリセツ作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を電化製品として考える <p>自分を物にたとえて取り扱い説明書をつくってお互いに良い関係を築くことに役立ててみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トリセツの1番めの目的は自分という存在をじっくり見つめること。 <p>2番めの目的は、自分を人に表現・・・どのような会話をするかということの理解です。他者につたえても良い情報はどんな事か、開示したくないお情報はなにかを考えるにあたり、周りの人に伝えたくないことは書かないし、どんな事を知ってもらいたいかというコミュニケーションの自分の原則がわかることです。</p> <p>「理解してほしい自分」です。面接でも、日常のおしゃべりでも、理解してほしい自分をだせばいいのです。</p> <p>◎自分のトリセツ作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人間関係の中で、おちいりやすいすれ違いや思い違いを防ぐために、自らの内面を吟味し、自己理解を深め他者に理解してほしいことを自分のトリセツにまとめる。 ②日常生活に活かせるように促す。 	
まとめ	5min	・振り返り、次回予告	・シート記入させる。

実施後の振り返り

【全体】勝手な思い込みでコミュニケーションがとりにくくなっている生徒が多いので、寸劇を見て普段の自分を振り返ってもらった。また、自分が普段友人とどのように会話しているか、思いやりを持った付き合い方ができているかの確認も含めこちらも教員の寸劇で感じてもらった。最後に自分で自分を見つめなおし、こんなところに気を付けてもらおうと自分は安心するというのをまとめたトリセツ作りもしてもらった。様々な発見ができたようであった。

【寸劇を見て】

タイプの異なる3名で行った。Aさんは自己主張が強い。Bさんは言いたいことが言えない。Cさんは二人を助けてくれる存在。いつもCさんのような人がいるわけではないので、そんなときにどうしたらよいかを考えてもらいたかった。

【トリセツ作り】

自分を電化製品に見立ててトリセツを作り、相手に自分を理解してもらえるようにするという目的で行った。皆一生懸命に考えて書いていて、予想以上に効果があったように思う。

アンケート集約

1、 相手に対して、「こう思ってるにちがいない」「私のことをわかってくれているはず」など思っ
てしまい、勘違いや思い違いがあったことがありましたか。あった人は、その時のあなたの気持ち
を書いてください。

・プライドが邪魔して素直に言えない。 / ・まず申し訳ない気持ちになる、恥ずかしい。 / ・話し方・聴き方がいいなとよくわかった。 / ・楽しかった点は、相手とうまく合わせられたとき。難しかった点は特になし。 / ・なぜわかってやれなかったのか。 / ・特になし(2) / ・相手がこう返すだろうと思ひ、ついついため口で言ったら傷つけてしまった。

2、 寸劇を見て、Aさん・Bさん・Cさんに対して感じたことを書いてください。

・Aさん：・素直になれない。 / ・思いやりがない、自分勝手、合わせるのが大変。 / ・みわ

ちゃんにそっくり。 / ・みんなと一緒にいたいと思う気持ちはわかるなと思いました。 / ・自分とは違う思考の人のことも考えた方がいいと思った。 / ・相手のことを考えずに言っていた。 / ・がんばった。 / ・自分勝手 / ・自己主張が強いタイプ。 / ・ぐいぐい来る KY 女子。

・**Bさん**：・Aと同じ。 / ・思ったことを素直に言えていない。 / ・もとしくんにそっくり。 / ・友達の前で歌を歌うのは私も恥ずかしいなと思いました。 / ・なんで嫌かの理由をその時に言えれば良かった。 / ・自分で言いたいことがあるのに言えない。 / ・がんばった。 / 押しに弱い。言われたら強くは断れない。 / 相手に気持ちを伝えられない。

・**Cさん**：見習いたい。 / ・AさんBさんの架け橋。 / ・かよちゃんにそっくり。 / ・二人の気持ちを分かりやすく伝えられてすごいと思いました。 / ・ちゃんと相手に言いたいことを言えるのがすごいと思った。 / ・AやBのことを考えつつBの気持ちを言ってくれた。 / ・がんばった。 / ・AさんとBさんのことをよくわかっている理解力のある人。 / ・AさんBさんの気持ちを理解して説得する人。

3、 自分のトリセツ（取り扱い説明書）を書いてみていかがでしたか。

・楽しかった。見せあいもした。 / ・時間かけすぎた。 / ・自分の説明書を書くのは難しかったです。 / ・自分のことを書くのが大変だった。 / ・自分のことを自分でしっかり知れてなかったけどトリセツを書いて自分はどういう人か分かれてよかったです。 / ・書いてみると「こういうところもある」と改めて感じた。 / ・自分にできることとできないことがあるということがわかりました。

4、 さいごに、本日のキャリア学習を終えて学んだことを書いてください。

・久しぶりだった。 / ・より理解を深めれた。 / ・自分の説明書を書くのは自分がどんなことがいやなのか、とか、趣味などを書くのが難しかった。 / ・聞き手の聴き方がいいなと思った。 / ・人との伝え方を勉強できて良かったです。 / ・コミュ力のほしい。 / ・自分で自分のトリセツを書くことはなかったから経験できてよかった。相手に気持ちを正しく伝えることが大切と思った。 / ・認識の共有は大事。 / 自分が知られたくないことはわざわざ自分から言わないこと。 / どんな相手にも優しく会話する。

③第3回検討会議

2019年2020年2月7日(金)9時00分から11時00分

八洲学園高等学校 横浜分校

実施内容

研究趣旨・概要説明及び今年度の取り組み内容・予定確認

勉強会報告

検討会議

研究実施報告 (八洲学園高等学校)

アドバイザー助言、検討、意見交換、質疑応答

その他

出席者名簿

氏名	現職
伊藤 京子	公立学校共済組合関東中央病院 精神科精神保健福祉士 作業療法士
東鬼 裕子	スクールソーシャルワーカー、就労支援コーディネーター
林尻 悟	一般社団法人 障がい者・高齢者じりつ支援機構 代表理事
松隈 信一郎	一般財団法人ストレンクス協会代表
森下 優子	立正大学キャリアカウンセラー、他
林 周剛	八洲学園高等学校 校長
吉田 士文	八洲学園高等学校 教頭
多田 浩之	八洲学園高等学校 教頭兼みのり高等部校長
南條 将範	八洲学園高等学校 教頭
五味 美和	八洲学園高等学校 進路指導部長・町田分室兼みのり高等部主任
花田 久仁彦	八洲学園高等学校 教諭
吉田 洵	八洲学園高等学校 教諭
寺西 美加子	八洲学園高等学校 教諭
熊谷 憲子	八洲学園高等学校 教諭
土屋 しのぶ	八洲学園高等学校 教諭

平井 美穂	八洲学園高等学校 生徒指導部長
岩谷 彰太	八洲学園高等学校 教諭



検討会議の様子

【八洲学園高等学校 実施報告】 報告者 寺西美加子教諭

2019 年度後期実施内容

	2019 後期実施内容	2019 後期実施内容
	1 年目	2 年目
1	オリエンテーション（文化祭の食品模擬店参加：日程・メニュー・役割について説明）	

2	就労体験（文化祭模擬店：店名決定『八洲キッチン』）	
3	就労体験（文化祭模擬店：準備するものを考える）	就労体験（文化祭模擬店：予算内で準備物を考える）
4	就労体験（文化祭模擬店：チラシ、看板作り）	就労体験（文化祭模擬店：準備物、出店許可証の作成）
5	就労体験（文化祭模擬店：チラシ、看板作り）	就労体験（文化祭模擬店：準備物、出店許可証の作成）
6	就労体験（文化祭模擬店：チラシ、看板作り）	就労体験（文化祭模擬店：チラシ、看板作り）
7	就労体験（文化祭模擬店準備：全員欠席）	就労体験（文化祭模擬店：教員とともに準備物を買出し）
8	就労体験（文化祭模擬店準備：全員欠席）	就労体験（文化祭模擬店：購入したものの確認と管理）
9	就労体験（文化祭模擬店準備：試作（肉巻きおにぎり串・フランクフルト・ドーナツ）・役割の確認）	
10	就労体験（文化祭模擬店準備：教室の装飾）	就労体験（文化祭模擬店準備：体調不良のため欠席）
	文化祭第一部（売り物の準備・手渡しをする）	文化祭第一部（販売の受付・お金の管理）
	文化祭第一部（売り物の準備・手渡しをする）	文化祭第一部（販売の受付・お金の管理）
11	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング
12	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング
13	文化祭模擬店の振り返り（反省と抱負をパソコンに各自入力）	
14	文化祭模擬店の振り返り（文化祭の片付け）	文化祭模擬店の振り返り（売り上げの計算・収支の振り返り）
15	社会常識（ニュース検定5級の学習）	社会常識（ニュース検定4、3級の学習）
16	社会常識（ニュース検定5級の学習）	社会常識（ニュース検定4、3級の学習）
17	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング
18	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング
19	就労体験（レポートの在庫数を数える）	就労体験（レポートの在庫数一覧をエクセルで作成）
20	社会常識（ニュース検定5級の学習）	社会常識（『おとなドリル』を使用し、お金について学ぶ）

21	カフェ準備（どのようなカフェにするか相談・タブレットで各自理想のカフェを調べる）	
22	カフェ準備（教員も入り、和菓子とお茶を提供することに決定した）	
23	カフェメニュー決め（商品を考える）	カフェメニュー決め（予算にあった商品を決定する）
24	カフェメニュー表作成（教員が作成し貼り付け作業）	カフェメニュー表作成（一から作成作業）
25	カフェで提供するお茶の入れ方（復習）実践練習	カフェで提供するお茶の入れ方（復習）見本
26	カフェ準備（メニュー表の作成）	
27	第一部カフェ開店（対象：中等部生徒）	
28	第二部カフェ開店（対象：堺教職員）	
29	漢字検定学習	業務体験（中等部卒業生徒へのメッセージカード作りの依頼準備）
30	一般常識（現代社会を学ぶ）	業務体験（中等部卒業生徒へのメッセージカード作りの依頼準備）
31	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング
32	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング
33	業務体験（中等部卒業生徒へのメッセージカード作り）	業務体験（メッセージカード作りを1年目・中等部生に教える）
34	業務体験（中等部卒業生徒へのメッセージカード作り）	業務体験（メッセージカード作りを1年目・中等部生に教える）
35	お別れ会でAさんに渡すアルバム作り	お別れ会発表準備（PPにて就労体験で学んだことをまとめる）
36	お別れ会でAさんに渡すアルバム作り	お別れ会発表準備（PPにて就労体験で学んだことをまとめる）
37	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング
38	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリング
39	お別れ会で渡すアルバム作り	お別れ会発表準備（PPにて就労体験で学んだことをまとめる）
40	お別れ会	お別れ会

④2019 年度キャリアカウンセリング

キャリアカウンセリングの主な内容		
2 0 1 9①	1) 挨拶と自己紹介 ◆初対面としての挨拶 ◆質問対応 2) パーソナルスペース	初対面としての挨拶と自己紹介について。氏名と学年、初対面の人に伝えておきたい自分の情報を、それぞれ自由に自己紹介した。その後、人への質問と、質問の対応方法を練習した。(別紙)
2 0 1 9②	3) 対話する時の座り方 ◆対面法と90度法	パーソナルスペースと対話する時の座り方について。教員が2人入り、それぞれペアになって、対面法や90度法、距離感を変化させながら話をしていく中で、自分にとっての心地よい距離感や、違いを感じる事ができた。(別紙)
2 0 1 9③	1) コミュニケーション手段 (伝達方法) ◆バーバルとノンバーバル 2) ノンバーバル・コミュニケーション	最初に1分間それぞれ近況報告をした。前回に続き、コミュニケーションに関して学習。言語以外のコミュニケーション手段について、学んだ。(バーバルとノンバーバル) うなづきやあいづち、声、表情、目線、姿勢、動作を実際に体験した。また、している人を見て、感じたことを共有した。
2 0 1 9④		前の授業に学んだこと、感じたことを、復習しながら、ワークを進めた。 (ワーク①) 話を聞きながら、自分のノンバーバルの反応ををチェックする。また、ペアの人に、感じたことを伝えてもらう。あいづちのバリエーションや姿勢や動作を確認する。 (ワーク②) 2パターンで話を聞いてもらい、ノンバーバルの影響について、話し合う。 ①会話に合わせて、うなづきやあいづちをしてもらう ②ノンバーバルの反応を一切せずに聞いてもらう。

2 0 1 9⑤	1) コミュニケーションの2つの次元 ◆感情のやりとりと理性のやりとり	最近腹が立ったこと、感動したことを共有し、相手の語る内容をどのように整理して聞くことができるのか、実例を交え、教えていただいた。
2 0 1 9⑥	2) 語られる内容を整理して聴く	ペアになって、お互いの悩みを相談。1人7分間でお話しし、聞き手は意見をせずに聞くだけ。どれだけ聞き手の話を引き出すかがポイントとなった。小島先生からのレクチャーを3人とも興味深く聞いていたため、話しているときに適度に相槌を行うことができ、話を引き出すことができていた。
2 0 1 9⑦	1) 言葉のトレーニング ◆否定表現と肯定表現 2) 目標を具体化する	言葉のトレーニング（肯定表現と否定表現）について。二重の否定表現について最初に教わった。『緊張しないで話す』等。『緊張』『しない』という二重の否定表現を使用することは、問題解決の表現としては適切ではないため、柔軟な発想で肯定表現で言い換える（『堂々と話す』『ゆっくり大きな声で話す』）というトレーニングを行った。
2 0 1 9⑧		前の時間のトレーニングを踏まえて、半年後、1年後の『良い目標』について、目標を具体化する練習をおこなった。①目標は『〇〇したい』という肯定表現を用いる、②大きな目標ではなく小さな目標にする、③抽象的な表現ではなく具体的な目標にする、④目標が実現された時の具体的なイメージを持つ、等のポイントを意識しながら、ペアワークで目標を具体化する問いかけ（質問）をする練習をした。最後にプチ瞑想を行った。
2 0 1 9⑨	3) 目標を実現するために ◆人は自己実現する存在 ◆目標と目的	「目標を実現するために」というテーマで、これまでの人生を振り返り、自分が実現してきたと思われることを皆で共有した。無意識に（自然に）実現したこと、意識して実現したものに分けて考えた。○無意識に実現してきたもの→「立つ、寝る、噛む、食べる」○意識して実現したもの→「計算できる、スポーツできる、料理ができる」など意見が挙がった。皆自由に発言した。また、目標と目的の関係について、学んだ。
2 0 1 9⑩		前の時間のレクチャーを実践。ペアワークでは目標と目的を明確にする問いかけ（質問）を練習した。ペアワークでは、最初に掲げた目標が、目的を問いかけることによってぶれていないのかを検証。生徒たちは、問いかけることに苦戦をしていたが、相手が発言した言葉を一生懸命聞きとろうと努力していた。

2019⑪	4) 自分を知る ◆自分をどのように認識しているか (自己概念)	自己概念について話をした。自分のことをどのくらい理解しているか、人によって答えが全然違い、盛り上がった。自分で気が付いている、認識している事柄をチェックシートにあげ、共有した。(別紙)
2019⑫	◆自己概念は循環を生む ◆一体自分は何者であるか	『昨日の自分の行動を時間経過順に書き出す』ワークをし、各々昨日のなにげない1日を思い起こした。平凡な1日を振り返った時、何をピックアップするのか、自己概念で学習したことを復習しながら、互いに共有した。
2019⑬	ストレスマネジメントとセルフケア	
2019⑭		

⑤勉強会

①関西勉強会報告

日時：2019年11月16日(土)13時30分～15時40分

場所：梅田キャンパス 第1教室 出席者：26名

演題：発達障害の世界 講演者：笹森 理絵 先生

講演内容

講演者は49歳で3児の母。息子3人は発達障害があり、療育手帳を取得済み。
笹森先生の幼少の頃から現在までの人生において、発達障害について話して下さった。

●発達障害は見たたり聞いたり思うことが独特な子。心の障害ではない。

自己理解の支援が必要。

例：大人→「わからなかったら言ってね」

本人→幼少時から言われている言葉で本気にするが、何度も聞くと怒られてしまう。

その結果、聞けなくなってしまう。何度も怒られたり嫌な思いをすると、怖くなってしまい萎縮する傾向が多い。

※学校では、ここでは聞いてもいいんだよと思ってもらえるサポートが必要。

●発達障害者は、苦手とと思っていることは、さらにできなくなってしまうのが特徴。

※先生に、できないことを通知表に記載されたり、話したりされると、本人はしんどくなってしまう。

頼っている先生が嘆いてしまうと本人は不安になってしまう。→多様性を受け入れることが大切。

●発達障害者が、よく間違えてしまう一言

ケース1

お店の人「近くまで来たら電話をください。」

本人→考え込んでしまう。どこが近いの？

※支援をする側は具体的に話すことが大切。

ケース2

訪問者からの商品説明のため取扱説明書を渡されて

「～取扱説明書の後ろに書いているので・・・」

本人→説明書の裏面ではなく、本当に後ろを向いてしまう。 ※主語を伝えることが大切。

「主語がなくてごめんね」など、教員側が本人に寄り添っていくことが大切。

→本人は安心する。放置すると、本人の不安は解消されない。●【できない。】で判断してはいけない。
※何ができないからLDなどと判断してはいけない。その前提が理解できていないだけであって、理解すれば覚えられることもたくさんある。

●発達障害者には、自意識過剰な人が多い。

「変なことを言っていたらどうしよう」→自分よりも、相手にどう思われているかが不安。

→被害的・ネガティブ思考→人を避けるようになる。→できなくなる。

●発達障害者が求めているもの

全てが障害とされているのではない。全部ができないということではない。自分を取り巻く環境と、自分の努力の相互作用、いかに障害状態にある時間を減らすことが大事である。

発達障害は障害固定（症状固定）ではなく、変動性である。

共感してあげることが大切であり、子どもが大人に話して良かったと思えてもらえたら良いことである。

→話して良かったと思ってもらえるよう大人が努力しなければいけない。

感想

笹森先生の人生を通して、わかりやすく発達障害の特徴を学ぶ事ができた。支援者は、発達障害者の多様性を受け入れ、自己理解の支援に力を入れることが大切だったり、本人の安心できる空間作りを提供して、伸ばせる能力を見つけ、自信に繋げることが大切であるとわかった。また、今後の指導や注意の仕方を学んだり、教職員の意識を高められる講

②東西合同勉強会

日時：2019年12月14日（土）13時00分～14時40分

場所：大阪中央校 601教室

演題：「通信制高校の現状と課題」～通信制高校の可能性を探る私たちの取り組み～

講演者：全国高等学校通信制教育研究会

会長 賀澤 恵二 様（NHK学園高校 統括校長）

講演内容

1. 通信制高校の現状

①あってはならない教育現場（学習指導要領から逸脱した不適切な教育活動、生徒の就学支援金詐欺、教育者不在の校務運営）

②質の確保から保障

2. 通信制高校に係る法令

・学校教育法、高等学校通信制教育規程、高等学校学習指導要領

3. 通信制高校の学習の基本

「面接指導」「添削指導（レポート等）」「試験」、メディア視聴、ネット学習

4. 通信制高校で学ぶ生徒の特色

通信制を第一希望とする生徒の増加、不登校経験者、中途退学・転入・転出、家庭の事情、仕事を持ちながら、多様な障害、発達障害等特別な支援を要する生徒 など

～求められる合理的配慮～今後の課題としては、学力向上もだが、手段にとらわれない、本質的なより良い学びというものを追求していきたい。

5. 多様な生徒が多様な教育方法で学ぶことができる

【NHK 学園高等学校の取り組み】

- ・ネット学習コース、登校コース、総合教育相談センター、少年院在院中の少年への高等学校教育

6. これからの通信制高校の充実・発展のためには

- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭を含めた三職の配置、または合理的な活用体制の確立
- ・これまでの様々な不適切な指導の実態を踏まえ、通信制高校における「校内研修」の充実を企図した各種支援体制の構築
- ・通信制高校における教育の質の確保・向上が強く求められている中で、「第三者評価を取り入れた学校運営改善」に向けた、実証的な調査研究を推進。

7. 通信制高校における「第三者評価」の必要性

ガイドライン等を踏まえ第三者機関が評価し、その結果について認定・公表等を行う仕組みの創設に向けた検討を進めること。

第三者評価を取り入れた学校運営改善のPDCA サイクル構築に係る調査研究等を推進していくことが必要である。

感想

通信制高校の現状として、あってはならない教育現場の高校の話から、通信制高校の質の保障についてわかりやすく学ぶ事ができた。通信制高校は、生徒のための学校教育を目指すには、様々な学習環境を設け、生徒にあった環境で指導する高校が増えている現状を理解し、NHK 学園高校の学習コースなど、NHK 学園高校の取り組みについて学ぶことができた。その中でも、生徒の学習に結び付ける取り組みや三職（ソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、養護教諭）と教員の連携の必要性について大変勉強になり、さらに知識や対応力を身に付けたいと感じました。

③関東勉強会報告

日時：2020年1月9日（木）14時～16時

場所：池袋キャンパス

出席者：20名

演題：AI基礎セミナー

講演者：株式会社インソース 中山弘之様

研修内容

AI基礎セミナーと題して、AI活用事例、AIの基本知識、AIの仕組みなどについて。

●AIの活用事例

身の回りのAI・人口知能だと思われるものについて。

例：ペッパーロボット、カーナビ、グーグル検索システムなど

●AIとは。

厳密なAIの定義はされていない。よくある説明として「人間や生物のような知能を持つ、機械・技術」あるいは「人間や生物の知的活動の一部を機能として実現するコンピュータ」など

●AIの分類

AIは、主に3つの分類方法がある。

A、4つのレベル

現在、世間的にAIと呼ばれているものは、用いている技術のレベルで4つに分けることができる。

1、制御プログラム

- 2、1 つめのプログラムに推論、探索技術や知識を加えたもの。
- 3、機械に大量のデータから反復的に学習をさせ、そのデータにある傾向や特徴を見つけ出す手法を用いたもの。
- 4、人間が設定していた特徴や傾向をデータから自動的に学習し、自動的に判断させるもの。

B、強い AI と弱い AI

強い AI：人間のように考えて、判断や実行をする。

弱い AI：一部の機能に特化し、設計にもとづいて判断や実行

C、汎用型 AI と特化型 AI

汎用型 AI：様々な領域で、状況に合わせて問題を解決することができる。

特化型 AI：特定の領域に特化して、問題を解決することができる。

⑥まとめ

2017 年度・2018 年度・2019 年度の 3 年間、文部科学省より推進事業をおこなわせていただき、八洲学園高等学校としては、以下の内容の成果をあげ、課題を見出すことができた非常に貴重な 3 年間だった。

○支援を要する生徒に関して

成果

- ①自己肯定に繋がる活動が出来た。
- ②反復することで慣れが生じ、自然と挨拶などが出来るようになった。
- ③役割を明確にすることで、人間関係をスムーズに運ぶことが出来るようになった。

課題

- ①生徒の特性が多様化している為、5 名以上の集団になると指導が難しい事が多かった。
- ②体力がない生徒が多く、継続して活動をおこなうことが難しかった為、体力作りの必要性を強く感じた。
- ③保護者との連携の必要性は必須で、その方法などはマニュアル化し、全員で共有する必要がある。

○学校・教員に関して

成果

- ①教員同士が教科の枠を越え、「就労支援」というテーマで教員が一丸となって協力体制を取ることができた。
- ②学校や教員主導でおこなうことと、生徒主体でおこなうことのバランスとタイミングの難しさと重要性を知ることができた。
- ③支援を要する生徒に対してのサポートは、個別と集団での活動をより効果的におこなう必要があり、それを形にしてしまうと十分なサポートが出来ない場合がある為、柔軟な思考の大切さを学べた。
- ④医療分野、福祉分野などの知識を広く学ぶことができ、その知識を教育という視点に活かすことを学んだ。
- ⑤八洲学園高等学校の取り組みを技能連携校にも波及するという当初の目的は達成できた。

- ⑥推進事業の勉強会をきっかけにさまざまな分野の勉強会を校務分掌主催でおこなうようになった。
- ⑦キャリアカウンセラーやスクールカウンセラーとの連携の機会が増え、積極的に相談や打合せの機会を持つ意識ができた。

課題

- ①学校の限界を知り、学校主導で、医療関係者や福祉関係者や就労支援事業所などとの連携をもっと積極的におこなう必要がある。
- ②医療や福祉の知識を学ぶことはよいことなのだが、教員の範疇を越えてしまうことがあった。立ち位置を間違えるとそこは学校ではなくなることを肝に銘じる必要がある。
- ③推進事業の委託は今年度で終了するが、この取り組みは今後も継続しておこない、発展させていく必要がある。
- ④今後は活動を通して、さまざまな角度から効果測定をおこなう必要がある。

以上